

採血室の混雑・密集回避の取り組み ～採血コントロールシステム導入のための院内連携～

勝見 真琴

東北大学病院 診療技術部 臨床検査部門 検査部

現在、当日の検査結果を用いて診察を行うことは多くの病院で実施されている。しかしそのための診察前採血には、早朝開院前から多くの患者が我先にと並び、長い行列が出来ている現状である。当院も例外ではなく長年、早朝から長蛇の列が出来ていた。2019年12月に新型コロナウイルス感染症が報告され、その後世界的流行となった。当院でもこれを機に院内感染対策の観点から、採血室の混雑・密集状態の解消のために『採血コントロールシステム』の導入を行うことになった。

本システムは既定の予約枠数管理の完全予約性ではなく、診察予約時間に基づいた採血予約システムである。診療支援側の大幅な改修は必要とせず、既存の診察予約時間により採血優先順位・実施時間枠をコントロールするシステムである。そのためには各診療科の診察予約枠数の整備、複数科受診際のルール、優先採血の可否など診療科とのルールの調整、認識の統一は不可欠であった。一番の課題は患者への周知、システムの理解度であり、そのためには事務部との連携も必要不可欠であった。

本セミナーでは採血室混雑の解消に苦慮している方々の一助になるよう、当院の本システム導入の経緯を中心に紹介する。